

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 12人

② 算数 12人

5 留意事項

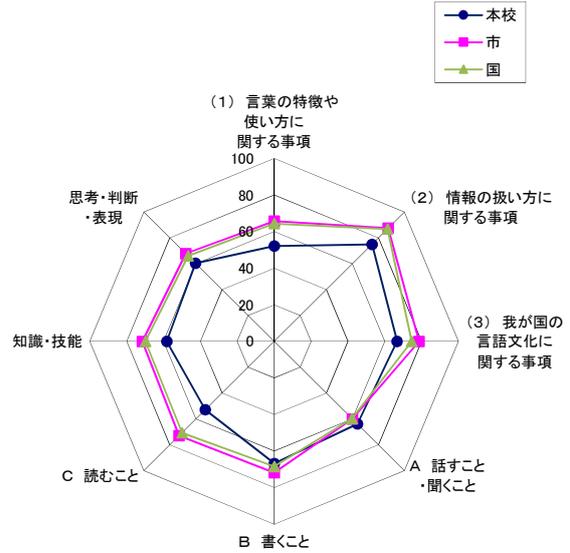
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	52.1	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	75.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.7	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	63.9	59.9	59.8
	B 書くこと	66.7	71.8	68.4
	C 読むこと	52.8	72.9	70.7
観点	知識・技能	58.3	71.5	69.8
	思考・判断・表現	60.4	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

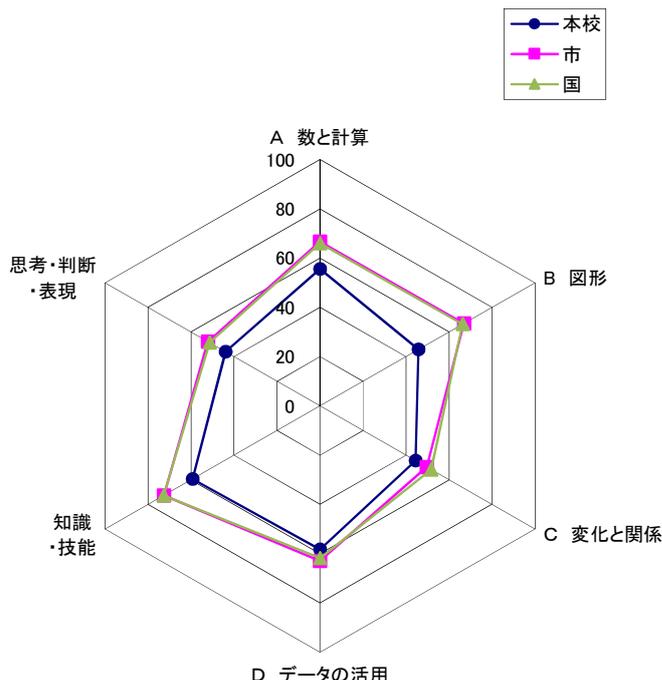
分類・区分	本年度の状況	◎良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○平仮名を漢字に正しく書き直すことができている。普段から既習漢字を用いるよう指導している成果だと考えられる。そのため、既習漢字の読み方や書き方が定着していると考えられる。</p> <p>●話し言葉と書き言葉の違いへの理解に課題が見られる。</p> <p>●主語と述語の関係を捉えることが不十分である。</p>	<p>・引き続き、習った漢字は必ず使用するよう指導していく。</p> <p>・話し言葉と書き言葉の違いに気付かせる活動を充実させていく。</p> <p>・相手や場面に応じて言葉を選んだり、適切に使い分けたりすることができるよう指導していく。</p> <p>・文の中での語句と語句との係り受けについての理解を深めていく。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○図による語句と語句との関係の表し方を理解している。授業でマッピングなどの図表化する活動を行っているため、理解が深まったと考えられる。</p> <p>●メモの取り方の資料を見て、どのような意図で図示された資料なのか、語句と語句の間にはどのような関係があるのかを理解することに課題が見られる。</p>	<p>・材料を集めて整理したり、構成を検討したりする活動の充実を図っていく。</p> <p>・資料を読み取る際に、相手の情報や場面など多角的に読み取りながら、語句と語句との関連性を見出していくよう指導していく。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○読書の楽しさや有効性を実感しながら、日常生活の中で意欲的に、継続的に読書を行うことができている。担任による読書指導に加え、図書館司書の指導や朝の読み聞かせ活動など本に触れあう機会が多いことによる成果だと考えられる。</p> <p>●読書が自分の考えを広げることなどに役立つことや、多様な視点から物事を考えることができるようになることに気付いていない児童が多く見られる。</p>	<p>・引き続き、日常的に読書に親しみ、継続的に読書するよう指導していく。</p> <p>・様々な種類の本に触れさせ、多様なものの見方や考え方があることを確認していく。</p> <p>・読書を通して、自分を支える言葉を見つけたり、今までになかった考えを発見したりすることによって読書の意義を実感させる。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○話し合う目的や意図を理解したうえで、話題を決め、集めた材料を整理することができている。普段から条件設定した話し合いの学習を練習したことの成果だと考えられる。</p> <p>●話し合う目的に加え、場面や状況を考慮することへの理解が不十分である。</p> <p>●集めた材料や異なる内容の材料を総合し、その関連性について明確化することが不十分である。</p>	<p>・話し合いの目的や意図だけでなく、実際に話し合うときの場面や状況なども具体的に意識させた指導を行っていく。</p> <p>・集めた材料をどのように分類、整理するのか、また整理されたまとまり同士にどんな関連性があるのかについて理解を深めていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○集めた材料を互いに結び付けて、関係を明確にすることができている。授業で文章同士の関係を見つかる学習を練習したことの成果だと考えられる。</p> <p>●事実をもとにして書くことはできるものの、自分の意見を書くことや、事実と意見を区別して書くことが不十分である。</p>	<p>・文章における事実と意見の書き方の違いを再確認させる。</p> <p>・事実と意見を区別した書き方を指導し、自分の意見が事実に基づいているかを振り返らせる。</p> <p>・条件に合わせた文章を書く活動を取り入れ、書くことに対する抵抗感を軽減していく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○登場人物の相互関係や心情の変化を読み取ることができている。日常生活や国語の読解において、相手の言動から心情を推察する指導をしたことで、理解が深まったと考えられる。</p> <p>●描写に着目しながら読み、会話や行動から暗に示される登場人物の心情を読み取ることに課題が見られる。</p> <p>●表現の効果によってどのような印象がもたらされるかを理解し、感想を書くことに課題が見られる。</p>	<p>・引き続き、描写をもとにして登場人物の相互関係や心情の変化を考える活動を行っていく。</p> <p>・暗示的に示された登場人物の心情を表す表現に注意させ、想像力を働かせながら読むよう指導していく。</p> <p>・メッセージ性が強い叙述や、暗示性の高い表現、題材を強く意識させるような文章に触れさせ、それに対して自分がもった感想を書き表す活動を行っていく。</p>

宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.6	66.7	66.0
	B 図形	45.8	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	44.4	49.6	51.7
	D データの活用	58.3	62.9	61.8
観点	知識・技能	59.3	72.6	72.8
	思考・判断・表現	44.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○数量の関係を、口を用いた式に表すことができる。実生活の場面や問題を使って、数量の関係を口で表す練習を行った成果であると考えられる。</p> <p>●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題でつまずきが見られた。</p> <p>●除数が小数である場合の除法に置いて、除数と商の大きさの関係についての理解が不十分である。</p>	<p>・計算のプロセスと結果を、式や言葉で説明する練習を繰り返し行い、記述力を高める。また発表の際には、計算のプロセスや性質の利用方法を言葉で説明させることで、相互の理解を深めていくようにする。</p> <p>・一斉指導だけでなく個別指導も行い、一人一人の理解度に応じた支援をしていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる児童が多い。簡単な三角柱や四角柱から始め、段階的に複雑な形状へと進めたことで、児童が基本的な理解を深めることができたと考えられる。</p> <p>●球の直径の長さや立方体の一片の長さの関係を捉え、立方体の体積を求める問題でつまずきが見られた。体積の公式が定着していない児童もいる。</p>	<p>・球の直径と立方体の一辺の長さを比較し、関係を視覚的に理解できるようにする。球の直径と立方体の一辺の長さの関係を利用して、体積を求める問題に取り組む。</p> <p>・体積の公式を繰り返し練習する時間を設け、具体的な例題を使って公式を身に付けられるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○速さが一定であることを基に道のりと時間の関係について考察することができる。日常生活の場面に置き換えて、速さの概念を理解するための具体的な例を使用したことで、速さの一定という概念が具体的に理解できたと考えられる。</p> <p>●速さの意味についての理解が低く、速さを求める問題でつまずきが見られた。</p>	<p>・速さとは「単位時間あたりに移動する距離」であるという基本的な定義を再確認し、速さを求める公式を用いる問題に繰り返し取り組むことで、公式の使い方を確実に理解できるようにする。</p> <p>・日常生活での具体的なシチュエーションを使って、様々な速さの問題に取り組む。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、市や全国の平均より低い。</p> <p>○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる。日常生活でよく使われる表を使って、データの読み取りと分類整理の練習をしたことの結果だと考えられる。</p> <p>●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題につまずきが見られた。問題では2つの事柄について問われていたが、1つの事柄にしか回答していない児童もいる。</p>	<p>・多様な折れ線グラフを使って、実際にデータを読み取る練習に取り組む。他教科の学習や実生活に関連するグラフを使用することで、理解が深まるようにする。</p> <p>・問題の読み取り力の向上のため、問題文を正確に読み取り、複数の条件を把握する練習に取り組む。問題文に含まれるすべての情報に注意を払い、漏れなく回答できるようにする。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 家庭学習時間についての設問では、平日、休日ともに80%以上の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く学習できている。これは、市・国の平均よりも高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という設問に対して、肯定的な回答をした児童はどちらも91.7%と、どちらも市や国の割合を大きく上回っている。基本的な生活習慣が身に付いていると考えられる。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対して、「持っている」と回答した割合は91.7%と、市や国の割合を上回っている。今後のキャリア教育で、自己の目標の実現につなげ、希望をもち続けられるように、アドバイスや支援を行っていく。
- ICTの活用に関する設問では、肯定的な回答をしている児童が県・国の平均を上回っているため、ルールを徹底しながら、授業に積極的に取り入れたり、家庭学習として課題を出したりするなど、学習に生かすことができるようにしていく。
- 「国語の勉強は大切である」と回答をしている児童は91.7%であったが、「国語の勉強が好きである」と回答している児童は58.4%であった。読むこと、書くことともに苦手意識をもっている児童も見られるため、児童とともに単元計画を立て、ゴールを明確にするなど、授業展開を工夫していく。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている児童は100%だが、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童は83.3%だった。学習内容がより定着するよう、習熟度別学習を継続しながら指導方法を工夫していく。
- 「新聞を読んでいる」と回答をしている児童は8.3%と、県・国の平均を下回っており、全く読んでいない児童が75%いる。学校図書館司書と協力し、児童が関心をもてそうな記事を掲示するなど、新聞に触れる機会を意図的に設けていく。

宇都宮市立上河内西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については、8割の児童が学年でめやすとしている1時間よりも長く実施できている。これは、市・国の平均よりも高い。家庭での学習習慣が定着してきているので、さらに学びを自分のものとして捉えられるような学習方法を身に付けさせていく。
児童の自己調整力を高めるための授業改善	児童が「見通し・学習・振り返り」の学びのサイクルを回し、自ら学びに向かうことができるように、学習者にとって「わかる」「おもしろい」と感じる授業を展開するとともに、児童のメタ認知を促す自己評価と学びを価値付ける声掛けを行っている。	「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と8割の児童が回答しており、学びに前向きな姿勢が見て取れる。一方で、各教科の好意的態度は、市や全国よりも低い。児童の学びに対する前向きさを生かすことができるよう、各教科の見方・考え方を働かせ、その教科ならではの本質的な面白さを味わうことのできる単元デザインを行っていく。
授業における話し合い活動の充実	授業の中に意識的に話し合いの場を設け、互いの考えを伝え合うだけでなく、友達の意見と自分の意見を比べて聞いて、考えを深めたり修正したりして繰り返しながら話し合いが行えるよう指導している。	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童は9割であり、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」については8割であった。このことから、友達と対話し、多角的な視点で考えることに価値を見出していることが分かる。国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、平均正答率が市や全国よりも高いことから、児童に良好な姿勢が見られるため、さらにICTなども活用しながら、話し合い活動の充実を図り、児童が友達と学ぶ楽しさを実感できるようにしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「読むこと」の領域で市や国より低い。描写に着目しながら読み、会話や行動から暗に示される登場人物の心情を読み取ることに課題が見られる。	感情を表す語彙を増やすとともに、心情を読み取るためのいくつかのステップを取り入れる。	様々な感情を表す言葉をカードやリストに整理し、物語を読む際にどの言葉が登場人物の心情に当てはまるか考えることで、適切な感情表現を選べるようにする。また、心情と行動や描写の関係を論理的に整理できるよう、心情マトリックスや感情マッピング等を用いる。
算数の「図形」の領域で市や国より低い。球の直径の長さや立方体の一片の長さの関係をつまみ、立方体の体積を求める問題でつまづきが見られた。	具体物を用いて、操作活動を取り入れた学習を重視する。	球や立方体の具体物を複数用意し、実際に図る活動を多く取り入れる。その後、見取り図や展開図の作成を行っていくことで、直径と立方体の一片の長さの関係を理解しやすくし、立方体の体積を正確に求める力を身に付けさせていく。